

『都市ガス工業概要(基礎理論編)(平成24年改訂版)』 新旧対照表

このたびは『都市ガス工業概要(基礎理論編)(平成24年改訂版)』をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
 本書につきまして、一部の記載事項に誤記等がありました。ここに謹んでお詫び申し上げますとともに、添付の新旧対照表のとおり一部改訂させていただきます。

一般社団法人 日本ガス協会

2023年5月一部改訂

頁	旧	新	備考
P23	2.3.2 粘度 (中略) 気体の粘度は液体の粘度に比べて小さく、温度とともに増加し、圧力によってはほとんど変わらない(図2.15)。 (後略)	2.3.2 粘度 (中略) 気体の粘度は液体の粘度に比べて小さく、温度とともに増加し、圧力によってはほとんど変わらない* (図2.15)。(※非常に高い圧力では、圧力の増加に伴い、大きくなる。) (後略)	補足説明の追記 (非常に高い圧力での圧力と粘度の関係を追記)
P56	3.2.3 エントロピー (中略) すなわち“定圧条件のもとで温度を上昇させると理想気体のエントロピーは増加する。”	3.2.3 エントロピー (中略) すなわち“定圧条件のもとで温度を上昇させると理想気体のエントロピーは増大する。”	表現の変更 (「増大する」に変更)
P74	4.1.2 反応熱 (中略) 物質1molを完全に燃焼する際の反応熱を特に燃焼熱といい、 ΔH_c という記号で表す。	4.1.2 反応熱 (中略) 物質1molを完全に燃焼する際の反応熱を特に燃焼熱といい、 ΔH_c という記号で表す。なお、 ΔH_c が負の時は発熱反応、正の時は吸熱反応となる。	補足説明の追記 (発熱反応および吸熱反応に関する記載を追記)
P153	7.4 熱放射 (中略) 黒体でない物質表面では、熱放射すると同時に他の物質表面から熱放射エネルギーの一部を吸収し、残りを反射する。他の物質表面からの熱放射エネルギーのうちで物質表面が吸収する全ての波長の熱放射エネルギーの割合を全吸収率 α 、あるいは単に吸収率という。(中略) また、他の物質表面からの熱放射エネルギーのうちで物質表面が反射する全ての波長の放射エネルギーの割合を全反射率 ρ 、あるいは反射率という。(後略)	7.4 熱放射 (中略) 黒体でない物体表面では、熱放射すると同時に他の物体表面から熱放射エネルギーの一部を吸収し、残りを反射する。他の物体表面からの熱放射エネルギーのうちで物体表面が吸収する全ての波長の熱放射エネルギーの割合を全吸収率 α 、あるいは単に吸収率という。(中略) また、他の物体表面からの熱放射エネルギーのうちで物体表面が反射する全ての波長の放射エネルギーの割合を全反射率 ρ 、あるいは反射率という。(後略)	表現の変更 (「物体表面」に変更)
P128- P130 P209	6.3 ベルヌーイの式 (中略) この原理を用いた圧力計をマノメータという。 (中略) 図6.5 マノメータ (中略) 例題6.2 液体として水を用いて図6.5のようにマノメータで球状容器の圧力を測る。 (中略) ピトー管は図6.6のように端が直角に曲がった二重管で、(中略)その環状部と中心部とを	6.3 ベルヌーイの式 (中略) この原理を用いた圧力計をマノメーターという。 (中略) 図6.5 マノメーター (中略) 例題6.2 液体として水を用いて図6.5のようにマノメーターで球状容器の圧力を測る。(後略) (中略) ピトー管は図6.6のように端が直角に曲がった二重管で、(中略)その環状部と中心部とを	表現の変更 (「マノメーター」に変更)

	<p>マノメータにつなぐ。(中略) によってマノメータに現れる液面差 H を測定すれば、ベルヌーイの式を使って流速を計算することができる。</p> <p>(中略)</p> <p>一方、マノメータは、ピトー管の先端孔の圧力 p_2 と側壁の圧力差 Δp が封液の高さ H (封液密度 ρ') となる。(後略)</p> <p>索引 [マ] マノメータ</p>	<p>マノメーターにつなぐ。(中略) によってマノメーターに現れる液面差 H を測定すれば、ベルヌーイの式を使って流速を計算することができる。</p> <p>(中略)</p> <p>一方、マノメーターは、ピトー管の先端孔の圧力 p_2 と側壁の圧力差 Δp が封液の高さ H (封液密度 ρ') となる。(後略)</p> <p>索引 [マ] マノメーター</p>	
--	--	--	--